

日本における慣習的信仰の基礎的研究

Fundamental Studies in Faith in Japanese Customs

東海林 克也
SHOJI Katsuya

1. はじめに

結論的にいえば、日本には宗教はないが信仰はあると認識される、ということである。日本には多くの「宗教」が乱立しているが、日本の「宗教」をどのように規定し得るのだろうか。神道、仏教、キリスト教、イスラーム教といった世界的宗教があり、さらに多くの新宗教⁽¹⁾ 新新宗教⁽²⁾ が現在の日本には存在する。一見すると日本は多くの宗教が存在する国とされ、宗教学や日本文化の研究者たちはこの状況を「日本は神の博物館」と喩え的に表現する場合もある。

しかしながら、「日本には宗教がない」といった言葉も使われ日本人に膾炙している。一方で、日本人の宗教観を表す言葉として「無宗教」という言葉の使用が多い。

詳しくは後述するが、宗教に関する調査やアンケートによると多くの日本人は「無宗教」という調査結果になる。

すなわち日本人の宗教観には「日本は神の博物館」であり、かつ「日本には宗教がない」という矛盾する表現がなぜ使用されるのか。

この矛盾の解決ために既存の「宗教」という言葉で日本的宗教をひとまとめで把握できるのであろうか。仮に日本的宗教と言語表出するような形で日本独自の宗教観を表出する語句（例えば「心の拠り所」や「日本的信仰」⁽³⁾）が必要とされるのではなかろうか。

そこで本論文では日本人の宗教観を考察しながら宗教という言葉にこだわらず、「日本的信仰」というあらたな表出を踏まえて日本的信仰研究の必要性を提示した。

第2章では考察の結果、古くから行われている私たちの慣習に基づく年中行事について人々の多くは宗教的行為と認識していないが、御勤めや布教のような行為は宗教的行為と認識していることを証明した。

第3章では宗教や信仰について再定義を行った。その結果、宗教とは「教祖・経典・教団の3つによって成り立ち1つ（1人）の神（＝超越者）を信じること」と本論文での定義を開示した。また信仰については「自然や非日常的・不可思議な物事に対する畏怖・畏敬の念や日常生活において言語をもってしても説明し得ないものに対する願い・祈り」と定義を開示した。

第4章では人々の感ずる宗教と学問上の宗教の定義とは大きな相違が認められることを踏まえ、翻訳語としての宗教と日本的宗教（＝信仰）との関連を考察した。結論

として、現代日本では宗教と言えは新宗教や新新宗教、一神教ということが確認できる。信仰がないわけではない。宗教や信仰といった言語化にはなじまないが、願いや祈りといった心中語として民衆の心に根付いていることが確認できた。

2. 日本の宗教観の概念規定

本章では日本の宗教をどのようにとらえ、認識するのかという問題に対する解を求めるための1つの手段、手掛かりとして日本人の一般的な宗教意識を考察・確認し日本における独自の宗教観について論じる。

「はじめに」で述べたように「日本は神の博物館」と表現する一方で「日本には宗教がない」といった、矛盾する認識のしかたで日本の宗教観を捉えることが多い。

その事を裏付けるように現在の日本には多くの宗教団体が存在する。文化庁の調査によると神道系の宗教法人は84,999、仏教系の宗教法人は77,121、その他の宗教法人は14,677となっており、総合するとその数は181,113という莫大な数の宗教法人数が日本に登録されている⁽⁴⁾。このような宗教法人数を鑑みると「日本は神の博物館」といわれる理由もうなずける。

ところが、「宗教を信じるか」という問いに対する答えとして日本人の多くは宗教を「信じていない」と答える。

例として國學院大學で行われた2003年と2004年に以下のアンケート調査^{(5)、(6)、(7)}と結果を挙げる(表1、表2)。

この調査結果から信仰や信心を持っていない割合が70%を超えるが、私たちの日々の生活を支える年間行事に宗教的要素がかなりの部分を占めていることがわかる。1

表1 日本の宗教意識・神観に関する世論調査(2003)

Q7 あなたは何か、信仰とか信心とかを持っていますか	
	割合 (%)
持っている	21.9
持っていない	70.9

國學院大學 21 世紀 COE プログラム「日本人の宗教意識・神観に関する世論調査」(2003) Q2 をもとに筆者作成

出典：<http://21coe.kokugakuin.ac.jp/modules/wfsection/article.php?articleid=96>

表2 日本の宗教団体への関与・認知・評価に関する世論調査(2004)

Q7 あなたは何か、信仰とか信心とかを持っていますか	
	割合 (%)
持っている	27.7
持っていない	72.3

國學院大學 21 世紀 COE プログラム「日本人の宗教団体への関与・認知・評価に関する世論調査」(2004)

Q7 をもとに筆者作成

出典：<http://21coe.kokugakuin.ac.jp/modules/wfsection/article.php?articleid=148>

年の始めである正月には神社・寺院に初詣として参拝し、その年の最後である大晦日には寺院に除夜の鐘を突く（聞く）ということ日本人の多くが行っている。

また、乗換案内サービスや旅行業サービスで有名なジョルダン株式会社ではインターネットサービスにおいて初詣人出ランキングの情報を提供している（表 3）⁽⁸⁾。

加えて、妊娠がわかったら安産祈願と称して神社に参拝し無事に生まれたらお宮参り、七五三など人生の通過儀礼・交通安全祈願・厄払い祈願・家内安全祈願・商売繁盛祈願等個人や家族を問わず各々がそれぞれの目的を持ち参拝している。

寺院においてもお宮参り、七五三などの各種祈願が行われている。加えて人の死に際しては各々の家の菩提寺によって葬儀が執り行われ故人を供養する。また、道端の地蔵には何となく（何気なしに）手を合わせる人々もあるだろうし、旅行のパムフレットなどをみると伊勢の神宮・出雲大社・厳島神社などの神社や清水寺・東大寺・善光寺のように著名な社寺が観光スポットやパワースポットとなり、多くの旅行者で賑わっている。さらに人気漫画やアニメの舞台となった社寺に「聖地巡礼」⁽⁹⁾として参拝する行為も目にする。

さらに、春秋の彼岸、盂蘭盆会などの日常生活にも仏教行事が組み込まれており私たちは何の疑問を持つことなく宗教的行為を行っている。

このようなことから、慣例的な意味において日本では神道や仏教等の宗教、また日々の宗教的行為⁽¹⁰⁾はとても身近なものであると認識することができる。

國學院大學 21 世紀 COE プログラムでは表 4～表 6 のアンケート調査と結果があり上記の証左となろう^{(11)、(12)、(13)}。

こういった調査の結果を通していえることは、初詣や墓参り、古くから行われている慣習に基づく年中行事の多くは宗教的行為であるが、当事者たる人々にとっては宗教的行為と認識していないということである。同時に御勤めや布教のような明らかに宗教的行為の根幹と考えられるものについては行っている人の行動割合が低いことが理解できる。

第 3 章では宗教や信仰をふくめ、いわゆる宗教、信仰について整理、確認し概念規定を試みる。

3. 宗教・信仰の概念規定

本論文では「日本における慣習的信仰の基礎的研究」をテーマとしている。そのため本章では宗教や信仰の定義を開示する。ところで「宗教」、「信仰」とはどのようなことなのかという根源的問いに対する普遍

表 3 初詣人出ランキング（ジョルダン初詣スポット）

	社寺名	参拝者数
1	明治神宮	316 万人
2	成田山新勝寺	309 万人
3	川崎大師平間寺	307 万人
4	浅草寺	283 万人
5	伏見稲荷大社	270 万人
6	鶴岡八幡宮	250 万人
7	住吉大社	236 万人
8	熱田神宮	230 万人
9	武蔵一宮簀川神社	215 万人
10	大宰府天満宮	200 万人

ジョルダン初詣スポット TOP20 のうち上位 10 件までを抜粋し筆者作成
出典：http://sp.jorudan.co.jp/newyear/rank_visitor.html

表 4 日本人の宗教意識・神観に関する世論調査 (2003)

Q2 現在、あなたが行っているものがあれば、いくつでもあげてください	
行 為	割合 (%)
お正月に初詣に出かける	72.6
お彼岸やお盆にお墓参りに行く	76.0
お守りやお札などを身につける	25.8
神社や寺などの近くを通りかかった時にはお参りする	24.3
家内安全、商売繁盛、入試合格などの祈禱(きとう)をしに行く	22.7
易や占いの記事を読んだり、見てもらう	8.9
経典や聖書など宗教に関する記事や本を読む	7.3
ふだんから座禅、ヨガ、ミサ、修行、お勤め(読経)、布教などのいづれかをしている	3.3
どれもしていない、何もしていない	5.7
わからない	0.5

國學院大學 21 世紀 COE プログラム「日本人の宗教意識・神観に関する世論調査」(2003) Q2 をもとに筆者作成
 出典: <http://21coe.kokugakuin.ac.jp/modules/wfsection/article.php?articleid=96>

表 5 日本人の宗教団体への関与・認知・評価に関する世論調査 (2004)

Q1 現在、あなたが行っているものがあれば、いくつでもあげてください	
行 為	割合 (%)
お守りやお札などを身につけている	21.3
神社や寺などの近くを通りかかったときにはお参りををする	26.1
家内安全、商売繁盛、入試合格などの祈祷をしに行く	20.9
易や占いなどの記事や本を読む	9.0
経典や聖書など宗教に関する記事や本を読む	6.9
ふだんから座禅、ヨガ、修行、お勤め、布教などいづれかをしている	4.5
どれもしていない	44.4
わからない	1.2

國學院大學 21 世紀 COE プログラム「日本人の宗教団体への関与・認知・評価に関する世論調査」(2004) Q1 をもとに筆者作成

出典: <http://21coe.kokugakuin.ac.jp/modules/wfsection/article.php?articleid=148>

表 6 日本人の宗教団体への関与・認知・評価に関する世論調査 (2004)

Q5、Q6 あなたは、どのような時に「神社」「お寺」にお参りに行きますか。この中からいくつでもあげてください。

行 為	神社 (%)	お寺 (%)
日課として	1.9	1.2
何気なく・通りかかったとき	14.0	8.9
初詣	69.5	15.3
厄よけ	16.7	4.4
七五三	24.9	2.3
お祭りのとき	30.1	55.0
何か願い事があるとき	12.9	4.8
その他	2.4	10.6
お参りはしない	14.7	23.9
分からない	0.5	0.7

國學院大學 21 世紀 COE プログラム「日本人の宗教団体への関与・認知・評価に関する世論調査」(2004) をもとに Q5、Q6 を参照し筆者作成

出典: <http://21coe.kokugakuin.ac.jp/modules/wfsection/article.php?articleid=148>

妥当的な答えは存在し得るのか。また、宗教や信仰の定義について考察するだけで1つの論文に成り得るし、もしくは複数の論文でさえ議論が足りないに違いない。ゆえに本論文においては宗教や信仰の定義を大きな議論としてとらえるのではなく、あくまでも本研究における私論として「宗教」「信仰」の定義を開示する。

(1) 「宗教」の定義

古来、多くの宗教学者、哲学者等の諸先人達は宗教とは何かという解を導き出すために苦心してきた。それゆえに宗教の定義は研究者の数ほどあるといわれている⁽¹⁴⁾。

岸本英夫はその著書『宗教学』の中で、

宗教とは、人間生活の究極的な意味をあきらかにし、人間の問題の究極的な解決にかかわりをもつと、人々によって信じられているいとなみを中心とした文化現象である。

宗教には、そのいとなみと関連において、神観念や神聖性を伴う場合が多い⁽¹⁵⁾。

と宗教について定義している。

また、阿満利磨は教祖・経典・教団の3つから成り立っている宗教を「創唱宗教」⁽¹⁶⁾と表現している。

こうしてみると、先に活用したアンケート調査から日本における宗教はキリスト教やイスラーム教などの一神教的な宗教を指すのではないかと把握することができる。以上のような考察から本論文においても宗教の定義としては阿満利磨の定義を援用し、「教祖・経典・教団の3つによって成り立ち1つ（1人）の神（＝超越者）を信じること」と定義する。同時に「信仰」についても考察する。

(2) 「信仰」の定義

『宗教学辞典』によれば信仰とは、

献身の意味をふくみ、誠心を捧げて信ずるという意味であり、信ずる対象は日常事や俗事または世間事ではなく、次元の高い神のことである⁽¹⁷⁾。

と定義されている。

ところで、上記文中にある次元の高い神とは、日常・非日常かの区別によってなされていると考えられる。古来より自然信仰を基層にしている日本の人々において、不可思議なもの、不可思議な事は全て神と認識されてしまう。自然も五穀豊穡をもたらすという意味では、日常事、俗事、世間事から超越しているという理解・認識のもとにおいて、次元の高い神といえるだろうが、同時に飢餓や飢饉をもたらし、人々の苦しみや死の起因となる場合には、日常生活に根ざしているという意味において次元の低い神になるのではなかろうか。

阿満利磨は自然発生し無意識に受け継がれてきた敬虔な心を「自然宗教」⁽¹⁸⁾と表現しているが、この言葉が本来の信仰の意味に近いのではないか。ただし、阿満の自然

宗教にも「宗教」が使用されている。同時に自然宗教の定義について「大自然を信仰対象とする宗教ではなく」と述べている。また神道についても阿満は「神道は「自然宗教」を基盤にして生まれた宗教であり、「自然宗教」そのものではない。神道は「創唱宗教」と「自然宗教」との中間にある。」⁽¹⁹⁾としている。しかしながら神道は古来の自然信仰を基層として成立した。つまり自然信仰（自然に対しての畏怖・畏敬の念）が最初にあったはずである。それとともに、村や共同体の永遠なる存続、五穀豊穡や生命の維持、社会の安定を目に見えない存在に願ったにちがいない。

そこで本論文における私論としての信仰の定義は「自然や非日常的・不可思議な物事に対する畏怖・畏敬の念や日常生活において言語をもってしても説明し得ないものに対する願い・祈り」とする。

第4章において学問的宗教・信仰定義の開示と人々の意識としての宗教や信仰の相違がなぜ起こるのかということについて考察する。

4. 翻訳語としての宗教と日本的宗教（＝信仰）

第2章において日本における人々の宗教観、心の奥底に潜む無意識の意識としての信仰観を考察した。第3章においていわゆる学問的な宗教・信仰の定義や本論文での定義を開示した。考察を通して人々の感ずる宗教と学問上における宗教の定義とは認識の相違があることがわかる。

このような矛盾は、明治時代における翻訳語の問題に起因する。明治時代における多量な外国語の受容やすり合わせにより、当時の日本文化や日本思想が海外文化に浸食されてしまった結果である。その浸食の打撃を特に大きく受けたのが「宗教」だった。欧米文化から見て宗教とはキリスト教であり、神道や仏教その他の思想は1つの宗教としてひとまとめに把握されてしまったであろうことは想像に難しくない。

また、現在我われが何気なく言葉にしている「宗教」という語は、英語の「Religion」という欧米における使用言語の訳語であることが定説であり、明治維新以降短期間のうちに日本語として定着したことは多くの研究者が指摘しているところである。

具体例として、加藤玄智によれば明治2年にキリシタン関係書類を翻訳した際に「宗教」という語を使用し行政文書を作成していたと記している⁽²⁰⁾。これは明治期の日本において宗教＝キリスト教とみていた決定的な証拠となろう。

つまり Religion が宗教と「意識」されたことが問題なのである。欧米の言語認識をそのまま日本の社会・異文化にあてはめることは困難であり欧米の思考論理、言語認識そのままでは日本に根付かせることはできなかったということではあるまいか。

このことは現代社会にまで続いており、宗教＝キリスト教（一神教的な潜在意識）ととらえ、一神教以外のものは宗教ではない、つまるところ無宗教という宗教観・宗教意識になってしまい、その結果日本人の多くが各個人の宗教を聞かれた時に「無宗教」と答えてしまう原因・理由になってしまったのではなかろうか。

こういった問題に対して阿満利磨氏は「創唱宗教」と「自然宗教」の区別が日本人の宗教心を分析する上で有効であると述べている。

同様に宗教区別の必要性は金児暁嗣の調査結果⁽²¹⁾にも表れている（表7）。

金児暁嗣のアンケート調査とその結果から宗教のイメージは既存宗教ではなく新宗教や新新宗教のそれであることがうかがえる。

以上の調査結果を参考にすると、現代日本の社会において日々の生活を営む人々にとって宗教と言えは新宗教や新新宗教、一神教という理解の仕方が一般的であるということが分かる。しかしながら前述のとおり信仰がないわけではない。宗教や信仰といった言

語化にはなじまないが、願いや祈りといった心中語として民衆の心に確固たるものとして根付いている。以下の例はその証左としてあげることができる。

2011 年 3 月 11 日に起きた東日本大震災では恒常的であると考えていた事、利便性であること、理論で理解・証明できるとされてきたことに対する疑問・懐疑を私たちに提示した。

震災後の復興にあたり、他の地域から大仏や地蔵などが寄付され、神社・寺院の復興基金などが設けられた⁽²²⁾。そういった事例をかんがみても、神社や寺院と地域社会には心的つながり（心的関係性）があるのではなかろうか。

5. まとめ

このような信仰の根源にあるのは自然宗教（神仏への同時信仰、神仏習合、古くからある日々の慣習）ということになろう。しかし自然宗教にしても「宗教」の語が使われており、民衆の信仰（心的拠り所）を探るためには自然宗教という語ではなく別の表現（＝日本的信仰）や日本独自の規定が必要である。

そのことによって、日本における宗教観の再構築を可能とするのが日本的信仰研究の意義である。グローバル社会が前提とされている現代社会で「日本」をどのように把握するのか、「日本文化」とはいかなるものであるかといった問いが海外だけではなく、日本国内からもあがっている⁽²³⁾。

そのような中で日本という国の宗教観を再確認することは有意義であり、重要である。

■註

- (1) 新宗教について井上順考は近代以降に出現した新しいタイプの宗教を指す。特徴として新宗教の多くは、信者を一人でも増やそうと様々な試みをする。これを「拡大再生産型」と比喻できる。（井上順考『現代日本の宗教社会学』世界思想社、1994 第 1 版 2004 第 11 版）

表 7 金児暁嗣「日本における近代的価値観と宗教意識の変質」『都市文化研究』1 号（2003）

宗教のネガティブイメージ	宗教のポジティブイメージ
胡散臭い	心のよりどころ
非科学的	救い
現実逃避	幸せ
暗い	天国（極楽）
老人	抱擁
金儲け	
新興宗教	
靈感商法	

金児暁嗣「日本における近代的価値観と宗教意識の変質」『都市文化研究』1 号（2003）をもとに筆者作成

- (2) 新新宗教は1970年代の新しい宗教団体の登場によるもの。西山茂が提唱し、定義としては大教団化した新宗教が社会的適応をとげるさいに、重荷になって棄て去った遺物をあえてひろいあげることによって、小規模ながら最近急速に教勢を伸張させている新宗教とされる。(西山茂「新宗教の現状」『歴史公論』1979)などが存在する。)創唱者の新しい宗教体験が、伝統的信条・崇拜などの再生、復活あるいは革新の形式をとりながら、祭司と一般信者の協働のもとに、教義、儀礼と組織の点で一定の形式に制度化ないしルーティン化していく過程にある宗教集団。(『現代社会学辞典』1984 初版第1版 1989 初版第3版、株有信堂高文社)
- (3) 震災復興と「神社再建」という視点から日本政策研究センターが精神のよりどころについて論じている。<http://www.seisaku-center.net/node/548> (最終アクセス日 2016年9月8日)
- (4) 2014年『宗教年鑑平成25年度版』文化庁
- (5) 國學院大學COEプログラム「神道と日本文化の国学的研究発信の拠点形成」内の第3研究グループ「神道・日本文化の情報発信と現状の研究」では、現代日本人の神観念、宗教性を把握するため2度の世論調査を実施している。第1回は2003(平成15)年に「日本人の宗教意識・神観に関する世論調査」として、第2回は2004(平成16)年に「日本人の宗教団体に対する関与・認知・評価に関する世論調査」として実施した。
- (6) 日本人の宗教意識・神観に関する世論調査2003(國學院大學21世紀COEプログラム) <http://21coe.kokugakuin.ac.jp/modules/wfsection/article.php?articleid=96> (最終アクセス日 2016年9月8日)
- (7) 日本人の宗教団体への関与・認知・評価に関する世論調査2004(國學院大學21世紀COEプログラム) <http://21coe.kokugakuin.ac.jp/modules/wfsection/article.php?articleid=148> (最終アクセス日 2016年9月8日)
- (8) 初詣人出ランキング(ジョルダン初詣スポット) http://sp.jorudan.co.jp/newyear/rank_visitor.html (最終アクセス日 2016年9月8日)
- (9) 聖地巡礼とは近年アニメや漫画の舞台、関連場所が聖地となり実際に足を運ぶことを指す。代表例として『らき☆すた』における埼玉県鷲宮神社やアニメ「ラブライブ!」の東京神田明神などがある。
- (10) 本論文において、宗教的行為と認識しない宗教的行為を「日々の生活に溶け込み、宗教とは意識せずに行っている行為」とし、当事者が宗教的行為と認識する宗教的行為を「日々の生活の中で宗教と意識して行っている行為」とする。
- (11) 日本人の宗教意識・神観に関する世論調査2003(國學院大學21世紀COEプログラム) <http://21coe.kokugakuin.ac.jp/modules/wfsection/article.php?articleid=96> (最終アクセス日 2016年9月8日)
- (12) 日本人の宗教団体への関与・認知・評価に関する世論調査2004(國學院大學21世紀COEプログラム) <http://21coe.kokugakuin.ac.jp/modules/wfsection/article.php?articleid=148> (最終アクセス日 2016年9月8日)
- (13) 日本人の宗教団体への関与・認知・評価に関する世論調査2004(國學院大學21世紀COEプログラム) <http://21coe.kokugakuin.ac.jp/modules/wfsection/article.php?articleid=148> (最終アクセス日 2016年9月8日)
- (14) 1961年『宗教の定義をめぐる諸問題』(文化庁文化部宗務課)には宗教の定義として104の定義が収められている。いくつか参考としてここに提示しておく。
姉崎正治(宗教学者):宗教とは、人間の精神が、自己の有限なる生命能力以上に何か偉大なる努力の躍動せる渴望憧憬して、之と人格の公称を結ぶ心肺機能の社会的人文的發展なり。
エリアーデ(宗教学者):宗教とは、いずれの文化にももれなく観察される「永遠回帰の神

話」に象徴されるような、人類の完全な原初の世界に立ち戻ろうとする欲求の表現である。
 タイラー（人類学者）：宗教をもっとも狭義に解釈すれば、単純に、霊的存在への信仰とい
 うのが妥当である。

- (15) 岸本英夫『宗教學』（昭和 36 年、大明堂）本論文では岸本英夫の宗教の定義を援用してい
 る。その理由として、宗教学研究の先駆者であるというのが 1 つの理由である。そのため
 一般的な宗教理解をする上で参考になると考える。
- (16) 「創唱宗教」とは阿満によれば、「特定の人物が特定の教義を唱えてそれを信じる人たちが
 いる宗教」のこと。加えて教祖と経典、それに教団の三者によって成り立っている宗教と
 している。代表的な例としてキリスト教や仏教、イスラム教であり新興宗教もこの類に属
 する。（阿満利磨『日本人はなぜ無宗教なのか』1996 初版 2005 第 20 版、筑摩書房）
- (17) 監修、小口偉一・堀一郎『宗教学辞典』東京大学出版、1973 初版 2003 第 18 版。『宗
 教学辞典』は一般的・大衆的な宗教や信仰を理解するために読まれている。そのため本論文
 でも一般的な理解としての信仰を探るために援用した。信仰の項目については井門富二夫
 （宗教学者）が執筆している。
- (18) 「自然宗教」とは阿満の考えによれば、いつ、だれによって始められたかも分からない、自
 然発生的な宗教のことであり、教祖・経典・教団をもたない、大自然を信仰対象とする
 宗教ではなく、自然に発生し無意識に先祖たちによって受け継がれ、今に続いてきた宗教
 のことであり、御先祖を大切にすの気持ちや村の鎮守に対する敬虔な心としている。（阿満
 利磨『日本人はなぜ無宗教なのか』1996 初版 2005 第 20 版、筑摩書房）
- (19) 阿満利磨『日本人はなぜ無宗教なのか』1996 初版 2005 第 20 版、筑摩書房
- (20) 加藤玄智『宗教学精要』錦正社、1955
- (21) 金児暁嗣「日本における近代的価値観と宗教意識の変質」『都市文化研究』1 号 2003
- (22) 宮城県陸前女川白山神社再建計画 <http://www.onagawahakusanjinja.jp/saiken.html>（2016
 年 9 月 21 日 最終アクセス）
 日本財団まつり応援基金 <http://matsuri-kikin.com/about>（2016 年 9 月 21 日 最終アクセス）
 など多数の事例が確認できる。
- (23) 近年多数の大学で「日本研究」や「日本学」研究などの学部、大学院、研究所が設立され
 ている。

■参考文献

- 阿満利磨、1996 初版 2005 第 20 版、『日本人はなぜ無宗教なのか』筑摩書房
 石井研士、1997、『現代日本人の宗教』新曜社
 石井研士、2007、『現代日本人の宗教 増補改訂版』新曜社
 井上順考、1994 第 1 版 2004 第 11 版、『現代日本の宗教社会学』世界思想社
 小口偉一・堀一郎監修、『宗教学辞典』東京大学出版
 加藤玄智、1955、『宗教学精要』錦正社
 金児暁嗣、2003、「日本における近代的価値観と宗教意識の変質」『都市文化研究』1 号
 岸本英夫、1961（昭和 36）年、『宗教學』大明堂
 北川隆吉監修、1984 初版第 1 版 1989 初版第 3 版、『現代社会学辞典』有信堂高文社
 西山茂、1979、「新宗教の現状」『歴史公論』雄山閣
 文化庁、2014、『宗教年鑑』平成 25 年度版
 文化庁文化庁宗務課、1961、『宗教の定義をめぐる諸問題』
 トーマス・ルックマン、赤池憲昭・ヤンスィングドー訳、1976、『現代宗教社会学入門』ヨルダ
 ン社
 ジョルダン初詣スポット初詣人出ランキング

http://sp.jorudan.co.jp/newyear/rank_visitor.html（最終アクセス日 2016 年 9 月 8 日）
日本人の宗教団体への関与・認知・評価に関する世論調査 2004（國學院大學 21 世紀 COE プログラム）
<http://21coe.kokugakuin.ac.jp/modules/wfsection/article.php?articleid=148>（最終アクセス日 2016 年 9 月 8 日）
日本人の宗教団体への関与・認知・評価に関する世論調査 2004（國學院大學 21 世紀 COE プログラム）
<http://21coe.kokugakuin.ac.jp/modules/wfsection/article.php?articleid=148>（最終アクセス日 2016 年 9 月 8 日）
宮城県陸前女川白山神社再建計画
<http://www.onagawahakusanjinja.jp/saiken.html>（2016 年 9 月 21 日 最終アクセス）
日本財団まつり応援基金
<http://matsuri-kikin.com/about>（2016 年 9 月 21 日 最終アクセス）
日本政策研究センター
<http://www.seisaku-center.net/node/548>（最終アクセス日 2016 年 9 月 8 日）